

## 外国語科学習指導案

日 時 令和4年11月18日(金)  
第4校時 11:50~12:40  
対 象 2年B組(36名)  
場 所 本校2年B組教室

## 1 単元名

“How Good Is Your Memory?”

教科書：“Revised BIG DIPPER English Communication II”

## 2 単元の目標と評価規準

## (1) 単元の目標

本文の内容や友人の提供する情報を踏まえ、自分が実践したい記憶法について、その概要とそう思う根拠について、JTE や ALT からの質問に答えながらやりとりすることができる。自分の目標（向上させたい力）に向かって、学び方を計画的に調整しながら、改善に向けた振り返りを行うことができる。

## (2) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p><b>【知識】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>やりとりに必要な語彙・表現を使用できる</li> <li>関係代名詞を含み、基本的な文法を使用できる</li> </ul> <p><b>【話すこと(やりとり)】</b></p> <p><b>【技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発音と抑揚を身に付けて話すことができる <b>【話すこと(やりとり)】</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者に理解してもらいやすいように、作成した資料をもとに、記憶法に関する概要と根拠についての質問に対してわかりやすく答えることができる。 <b>【話すこと(やりとり)】</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者に理解してもらいやすいように、資料の作成を工夫したり、記憶法に関する概要と根拠についての質問にわかりやすく答えようとしたりする。</li> <li>そのために、自分の目標に向かって計画的に準備し、やりとりの練習に取り組む学び方を調整しながら、改善に向けた振り返りをしようとしている <b>【話すこと(やりとり)】</b></li> </ul>

## 3 指導にあたって

## (1) 教材観

アカデミックな分野から身近な話題が幅広く網羅された教材であり、単元に合わせて多様な言語活動が設定できる可能性を秘めている。コンテンツについては「読む」能力にフォーカスされているため、4技能のバランスについて考慮し、現在は独自にハンドアウトを作成し、指導している。

文章の難易度は中程度である。単語数が少ないため、習熟度の高い生徒にとってはすぐに読解が終わってしまい、学力の伸長という観点では別途レベルの高い教材を与える必要がある。しかし、集団全体に対する指導という観点では中庸をとっており、本校の実状に合致している。

## (2) 生徒観

本校は所謂進路多様校であり、入学当初より大学進学を見据えた生徒層へのハイレベルな指導と、中学校段階の学習内容が定着していない生徒層に対する学び直しの指導という二律背反の方向性を両立させる必要がある。

また、本校2年次生徒全体に共通していることは、こと英語に関しては知識の「習得」に終始していることである。そのため、今後の学習を通して知識の「活用」にシフトしていく必要がある。しかしながら、非常に素直な性格の生徒が多く、言語活動そのものは全員が積極的に取り組むことができる。

(3) 指導観

前項(2)で述べたように本校生徒は学力の幅が大きいため、指導のレベルについては習熟度の低い生徒に対する「学力の底上げ」に焦点を当てている。また、成績上位層についても、グループワークを行った際に Student Teacher として役割を与えることで、理解の深化を図っている。

一方で、思考・判断・表現の領域については課題があり、言語活動においては指示された事柄については主体的に実行できるが、特に「判断・表現」の部分で困難を抱えている生徒が多い。そのため、2年次後期からはリテリング等の活動を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

4 単元の指導と評価の計画 (計 13 時間)

時間	ねらい (■) , 言語活動等 (丸数字)	評価の観点			備考
		知	思	態	
1 (1)	■ これまでに自分が実践した記憶法について考察する ① これまでに実践した記憶法を書き出す ② グループで記憶法の効果について発表し合う				本単元のルーブリックを提示し、目標の共有を行う。
9 (2) (10)	■ 読解を通して効果の高い記憶法について理解する ① ペアで身近な話題について、短いやりとり ("Small Talk") を行う【帯活動】 ② 本文を読解する ③ ディクテーションを行い、結果を確認する ④ 本文の内容についてリテリング活動を行う  Part. 1 - Part. 4 の読解については1パートあたり2時間を目途として進める (1 単位時間)				リテリング活動の振り返りを行い、評価する。  ※①、④において形成的評価を行い、到達度についての確認を行う。
13 (3) (1) (1)	■ 教師と記憶法に関するやりとりを行う ① 自分がおすすめしたい記憶法について調べる ② グループワークを行い、他者が調べた記憶法について情報共有を行い、インタビューテストの練習を行う ③ JTE、ALT とのインタビューテストを行う	○	○	○	JTE、ALT とのインタビューテストで評価を行う。

5 パフォーマンステストの実施計画

領域	■ 話すこと [やり取り]      □ 話すこと [発表]      □ 書くこと
関連する Can-Do リスト	第2学年 日常的な話題について、質問に答えたり、自身の考えや気持ちを話し合ったりすることができる
実施内容	本文の内容を踏まえ、また、「友人が提供した記憶法の中から実践してみたい方法」を1つ選択し、その概要とその記憶法を実践したいと思う根拠について、JTE または ALT と質疑応答によるやりとりを行う
実施方法	実施方法 1. 「友人が提供した記憶法の中から実践してみたい方法」についてその概要を説明する 2. 教師が「実践したい理由」や「どのように記憶するか」等についての質問を行い、それに返答する

## ■ 採点の基準

○「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」についての3つの条件

条件1：自分が実践したい記憶法について、それを選択した根拠を述べた。

条件2：自分が実践したい記憶法について、その方法論を簡潔に述べた。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>① やりとりに必要な<u>広範囲</u>の語彙・表現をある程度正しく使用している</li> <li>② 関係代名詞を含み、広範囲の文法をたいてい正確に使用している</li> <li>③ ほぼすべての内容が容易に理解できる程度の、明確な発音と抑揚を身に付けて話している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①他者に理解してもらいやすいように、資料をもとに記憶法に関する概要と根拠についての質問にわかりやすく明確かつ効果的に答えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 他者に理解してもらいやすいように、資料の作成を工夫したり、記憶法に関する概要と根拠についての質問にわかりやすく明確かつ効果的に答えようとしたりする</li> <li>② そのために、自分の目標に向かって計画的に準備し、やりとりの練習に取り組む学び方を調整し、改善に向けた振り返りを多角的な視点からしようとしている</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>① やりとりに必要な語彙・表現を意味が通じる程度に使用している</li> <li>② 関係代名詞を含み、基本的な文法を、意味が通じる程度に使用している</li> <li>③ 意味が通じる程度の発音と抑揚を身に付けて話している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 他者に理解してもらいやすいように、資料をもとに記憶法に関する概要と根拠についての質問にわかりやすく答えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 他者に理解してもらいやすいように、資料の作成を工夫したり、記憶法に関する概要と根拠についての質問にわかりやすく答えようとしたりする</li> <li>② そのために、自分の目標に向かって計画的に準備し、やりとりの練習に取り組む学び方を調整し、改善に向けた振り返りをしようとしている</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>① やりとりに限定的な語彙・表現を使用する</li> <li>② 限定的な範囲で文法を使用するが、間違いが多い</li> <li>③ 発音と抑揚に間違いが多い。理解の妨げになる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 資料をもとに記憶法に関する概要と根拠についての質問にわかりやすく答えていない。または、不足がみられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 他者に理解してもらいやすいように、資料の作成を工夫したり、記憶法に関する概要と根拠についての質問にわかりやすく答えようとしていない</li> <li>② そのために、自分の目標に向かって計画的に準備し、やりとりの練習に取り組む学び方を調整し、改善に向けた振り返りに不足がみられる</li> </ul>

6 本時の展開 (12/13 時間目)

(1) ねらい

- ・本文の内容を踏まえ、自分が実践したい記憶法について JTE や ALT とやりとりすることができる。

(2) 展開

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	帯活動 (small talk)	ペアになり、身近な話題について短いやりとりを行う	ペアワーク終了後、2名程度を指し、即興でのやりとりが出来るか確認する
展開	<p>【ねらい】自分が調べた情報（記憶法の概要：タイトル）をポスターにまとめ、それをもとに話す</p>		
	情報収集 整理・分析 まとめ・発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が作成したポスターをもとにグループ内で説明を行う</li> <li>・発表を聴き、友人が紹介する記憶法についてメモをとる</li> <li>・インタビューテストに向けて必要な情報を収集するため質問を行う</li> </ul>	4人程度のグループにおいて、1人1分間程度の説明を2ラウンド行う
	<p>【ねらい】補助があれば生徒同士で質疑応答することができる</p>		
	ペアワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き取った記憶法から自分が実践したいものを1つ選び、パートナーにその概要を説明する</li> <li>・ワークシートに従い、質疑応答をする</li> </ul>	ループリックを再提示し、パフォーマンステストを見据えた説明ややりとりを促す（本時の授業において資料作成のための時間は確保しない）
まとめ	振り返り 次回の予告	個人で振り返りを行う	・適宜机間巡視を行う